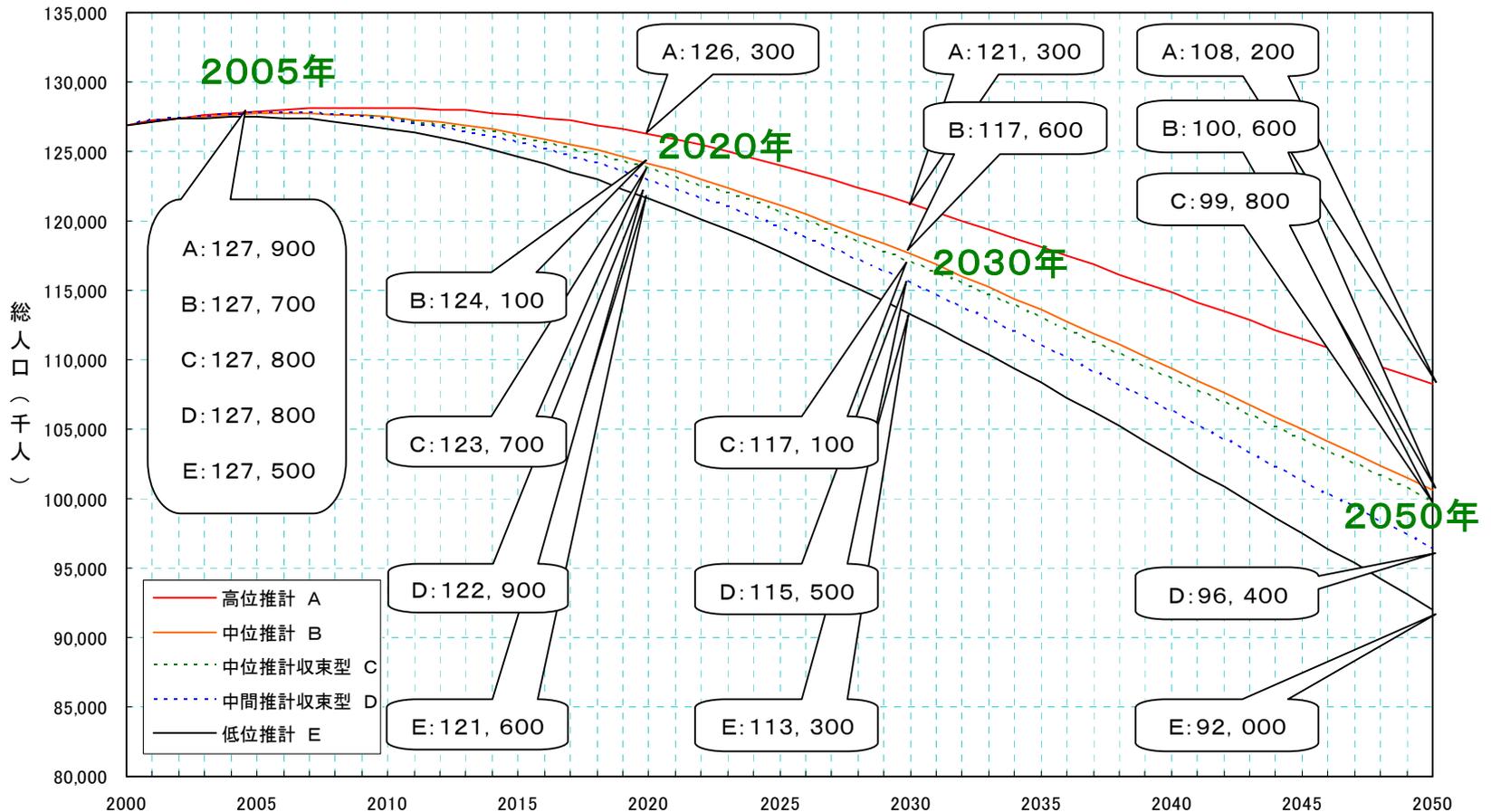


「総人口」、「労働力人口」について

合計特殊出生率の仮定の違いによる人口の推移（試算値）	1
日本の将来推計人口に係る合計特殊出生率の仮定値	2
日本の将来推計人口のまとめ表	3
労働力人口の将来予測	4

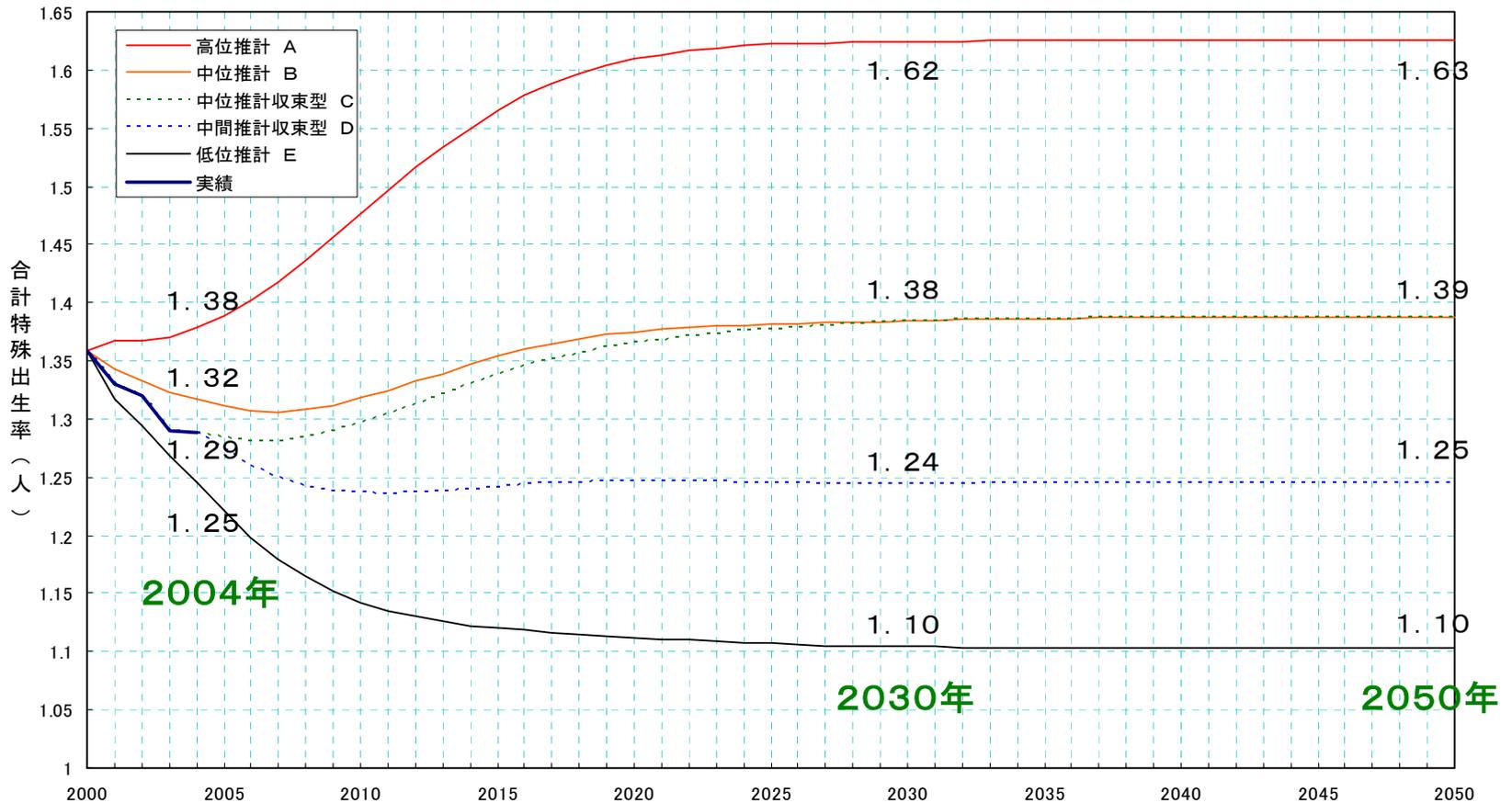
合計特殊出生率の仮定の違いによる人口の推移(試算値)



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」をもとに、国土交通省国土計画局作成。

(注) 中位推計収束型とは、上記中位推計に用いている合計特殊出生率と足下の統計値との乖離が、2030年にかけて収束すると仮定したもの。中間推計収束型とは、同様に上記低位推計に用いられている合計特殊出生率と足下の統計値との乖離が、2030年にかけて収束すると仮定したもの(低位推計収束型)と、中位推計収束型との中間値を、合計特殊出生率と仮定したもの。

日本の将来推計人口に係る合計特殊出生率の仮定値



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」をもとに、国土交通省国土計画局作成。

(注) 中位推計収束型とは、上記中位推計に用いている合計特殊出生率と足下の統計値との乖離が、2030年にかけて収束すると仮定したもの。中間推計収束型とは、同様に上記低位推計に用いられている合計特殊出生率と足下の統計値との乖離が、2030年にかけて収束すると仮定したもの(低位推計収束型)と、中位推計収束型との中間値を、合計特殊出生率と仮定したもの。

日本の将来推計人口のまとめ表

(単位:千人)

		高位推計 A	中位推計 B	中位推計 収束型 C (2005年は 実績値)	中間推計 収束型 D (2005年は 実績値)	低位推計 E
総人口	2005	127,894	127,708	127,759	127,759	127,482
	2030	121,262	117,580	117,051	115,480	113,297
	2050	108,246	100,593	99,811	96,359	92,031
増加数	2005-2030	-6,632	-10,128	-10,708	-12,279	-14,185
	2030-2050	-13,016	-16,987	-17,240	-19,121	-21,266
平均増加率	2005-2030	-0.21	-0.33	-0.35	-0.40	-0.48
	2030-2050	-0.57	-0.78	-0.79	-0.90	-1.03

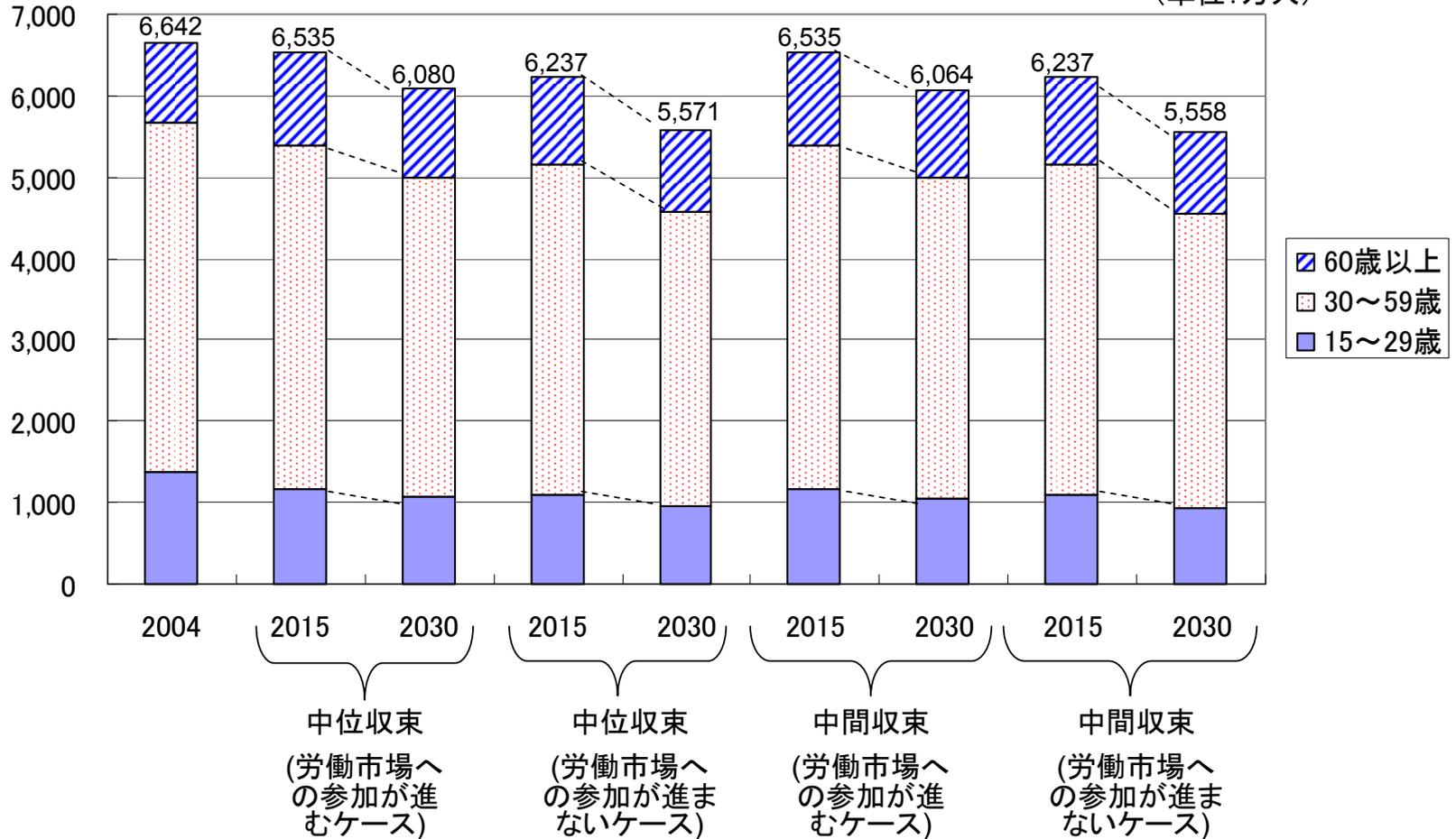
(出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」及び明治大学政治経済学部助教授加藤久和氏作成の人口推計プログラムを元に国土交通省国土計画局作成。なお、加藤氏のプログラムに、直近に公表された合計特殊出生率、人口等のデータを反映。

(注1)中位推計収束型、中間推計収束型の推計値には、国際人口移動は考慮されていない。

(注2)2005年から2030年までの人口増加数と平均増加率は、2005年の実績値と比較しての計数である。

労働力人口の将来予測

(単位:万人)



(出典)厚生労働省・雇用政策研究会報告書(H17年7月)をもとに、国土交通省国土計画局作成。

(注)「労働市場への参加が進むケース」とは、各種施策を講じることにより、より多くの者が働くことが可能となったと仮定したケース。「労働市場への参加が進まないケース」とは、性・年齢別の労働力率が2004年の実績と同水準で推移すると仮定したケース。